

ふくしま中通り地域 ユニバーサルデザインニュース

UNIVERSAL DESIGN NEWS



2007.07.31

vol. 01

ふくしま型UDネットワーク形成促進事業

事業者：福島県

発行：NPO ふくしまユニバーサルデザイン

〒963-8001 郡山市大町1-3-13

アドミラルビル2階 (株)プロダクト・ワン内

TEL 024-938-6102

FAX 024-927-0016

URL <http://www.f-ud.jp>

E-mail fudml@f-ud.jp

ふくしま型UDネットワーク形成促進事業スタート

参加者募集！**無料**

2005年に引き続き、当NPOにおいて、福島県の「ふくしま型UDネットワーク形成促進事業」を受託いたしました。福島県がUDの「人づくり」「連携づくり」「情報づくり」に関する業務をNPOに委託することによって、UDを実践するための活動サイクルを確立し、地域における、活動ネットワークの形成を支援する事を目的として実施するものです。どなたでも参加できますので、ぜひこの機会に、UDについて知識を深めてください。お申込みは、事務局まで。(まもなくチラシが完成します)

事業予定

※日程・講師・内容につきましては事情により、変更となる場合がございます。ご了承下さい。

UDチェック・ワークショップ

▶ 9月8日(土) 10:00～18:00 会場・ビッグアイ

UDの視点から地域の現状や課題を抽出するため、実際に街へ出て建築物や交通、サービスなどのソフト・ハードの幅広い分野で評価を行います。また抽出された課題に対し、UDの視点から具体的な解決策を検討するワークショップも開催します。

地域パートナーシップ連携会議

▶ 9月9日(日) 13:00～17:00 会場・郡山地域職業訓練センター

UDを県内(中通り)に浸透させるため、地域が抱える問題を探り、議論し解決する為の会議を開催します。対象者は、ふくしまUD推進パートナー登録者、パートナー養成講座修了者、一般県民、NPO等の市民団体、企業、行政職員などです。

UD情報・PR(講座・発表)

▶ 10月7日(日)・8日(月)祝 会場・ビッグパレットふくしま

人権フェスティバル開催時、入場者(一般県民)を対象に3方面のNPO同士がUDPRブースにて連携してUDの取り組みを広く県民へ向けて情報発信すると共に、地域のネットワーク同士が有機的に連携した全県的なUD推進ネットワークの構築に向けたきっかけとします。

パートナー養成講座

▶ (第1回) 10月13日(土) / (第2回) 10月20日(土) /
(第3回) 10月27日(土) / (第4回) 11月3日(土)
13:00～17:00 会場・郡山労働福祉会館

一般県民を対象に20名程度でUDの基礎知識を習得。個人がスキルアップを実現できる活動内容のシステムづくりを念頭に置き、各テーマ担当の講師がUDのこの部分という講座のポジションを意識した内容を目指し今後の参加個人・企業のUD啓蒙・実践活動のきっかけとしていただきます。ワークショップに関しては、受講者が講座運営のノウハウを学べるようなカリキュラムとします。

ステップアップセミナー

▶ 12月2日(日) 13:00～17:00 会場・郡山労働福祉会館

パートナー養成講座受講者、ふくしまUD推進パートナー登録者等、一定の知識を有する方を対象に、20名程度で、講演と実践事例のセミナーを開催しより高度な知識や実践に向けたアイデア・ヒントを習得する機会を提供します。

ユニバーサルデザイン情報コーナー開設



平成19年7月に当NPO事務局内(郡山市大町アドミラルビル2階)にユニバーサルデザイン情報コーナーが開設されました。UDに関する情報の案内及び世界のUD・UD製品紹介・UD関連地視察「アメリカ」の資料等を展示しています。随時追加展示を予定していますので、ぜひお立ち寄りください。なお、当NPOのホームページ(<http://www.f-ud.jp>)もご覧ください。

第9回ふくしまユニバーサルデザインフェアをよろしく!

開催期間：9月28日(金)～30日(日)

会場：ビッグパレットふくしま(多目的ホールC)

テーマ：UD夢市・思いやりが見える快適生活

生活/住宅/医療/グループ・団体の4大ゾーンを中心に、「わかりやすい」・「体験できる」・「便利につながる」ブースを設置し、すべての人や環境にやさしい、物・システム・サービスを一堂に会して、ユニバーサルデザインの大切さを社会に発信し、交流します。UDビジネスフォーラムでは、国土交通省住宅担当官 楠田幹人氏が講演する予定です。その他、子どもを対象にしたホビーコーナー、作品を展示するカルチャーコーナー、飲食エリアなどを設けます。



昨年のUDフェアの様子

未来を拓くUD

1

桜の聖母短期大学 生活科学科 福祉こども専攻 福祉デザインコース

衣食住、生活のすべてをカバーする UDの理念をもとに、 社会が求める人材を育てる

桜の聖母短期大学生活科学科福祉こども専攻福祉デザインコースの学生たちは、ユニバーサルデザインの視点に立ったモノづくりの知識と技術を学んでいます。「子ども、妊娠中の女性、外国籍の人、障がいを持つ人、高齢者などあらゆる人と共に生きるために、人間生活の基本となる“衣食住”のデザイン分野で、どういったサポートができるかを学び、研究するコースです。家政科として培ってきた歴史を踏まえながら、建学の精神のひとつ“共に生きる”ことを生活のなかで実現できる人を社会に輩出しています」と話すのは、二瓶由美子准教授。二瓶准教授は、専業主婦として子どもたちを育てた後に、大学院で学び研究者としてのキャリアをスタートさせた人です。専門はジェンダー法学で、女性・人権・法識字の角度から、“人権尊重”を基礎とする「ユニバーサルデザイン論 人権」を教えています。



住居生活空間論(1年)では、高齢者が住み慣れた家で生活を続けるために必要な住環境について学ぶ

DV(ドメスティックバイオレンス)などの人権問題の研究に取り組む二瓶由美子准教授



桜の聖母短期大学は昭和30年の創立。長く英語学と家政学の学科に分けた女子教育を進めてきましたが、時代のニーズに応え、平成9年に家政学科・家政専攻を生活科学科・生活科学科専攻と改称。その後、生活デザイン専攻を経て、平成17年より生活科学科・福祉こども専攻を新設しています。
〒960-8585 福島市花園町3-6
TEL 024-534-7137 FAX 024-531-2320

福祉デザインコースの1年生は人権、環境から見たユニバーサルデザイン論のほか、衣食住の基本や、さまざまなライフステージ、人間のからだのつくりなどについて学び、2年生になると各学生がそれに対する考察を進めていきます。例えば、子どもが脱ぎ着しやすい洋服のデザイン、ベット上で生活する人のための食事、車いすを使う人が暮らす家に必要なリフォーム、パラリンピック・障がい者スポーツ…自らテーマを定めて進める特別研究が卒業に向けた集大成です。「学生たちは、2年間の学びを通して、日常生活でもお年寄りや障がいのある人に対して自然な手助けができるようになっていきます。アルバイト先のスーパーで自分のレジをわざわざ選んでいつも並んでくれるお年寄りがいることを面接でアピールし、就職に結びついたという学生もいました」と二瓶准教授。今春巣立った新コースの1期生は就職率100%だったとか。この結果は、社会がユニバーサルデザインを求めている“証”とも言えそうです。

ユニバーサルデザイン食カウンセリング論(2年)では、紙粘土を使って食器をデザイン



UD製品紹介 埼玉県、半球状キーボード開発

高齢者や手に障がいのある人が使いやすいようにデザインしたパソコン用キーボードを、埼玉県産業技術総合センター(SAITEC)が開発し、特許が認められました。半球の樹脂を握ってボタンを押すだけで文字入力ができ、寝た姿勢でも入力できるのが大きな特長です。お湯につけて軟らかくし、使う人の手に合わせて加工することも可能だそうです。センターの貸研究室に入居する「日本エコロジー有限公司」(横田和博社長)が県に特許料を支払い、来年4月の商品化を目指しています。

この製品は、障がい者にも健常者にも使いやすい「ユニバーサルデザイン」の一例として、4月から使われている高校の教科書「情報B」(開隆堂出版)でも紹介されています。

9月28日(金)13:00「ユニバーサルデザインフェア」のUD先進県フォーラムに、この製品の開発を手がけられた埼玉県産業総合技術センターの研究員が参加する予定です。

ユニバーサルデザイン ミニ講座開催

7月24日(火)、NPOふくしまユニバーサルデザイン会員で木工業を営む小野塚さんが講師となり、所属している企業家団体のユニバーサル委員会発足に伴う「ユニバーサルデザインミニ講座」が開催されました。資料を使いながら、自らも郡山テクノポリス公募型ユニバーサル製品開発支援により製品化したUDベンチの事例を交え、UDの解釈から小野塚さんが表現するUDなどわかりやすい内容が好評でした。これからの委員会の活動が楽しみです。

